

平成 30 年度第 2 回学校運営協議会議事録

実施日時 平成 30 年 10 月 27 日（土） 9:30～10:45

実施場所 校長室

出席者 委員 4 名、校長、事務局 3 名（教頭 2 名、事務長）

I. 校長あいさつ

- 本日は学校運営協議会のほかに、授業参観、オープンスクール、PTA 進路講演会・役員会・文化祭実行委員会を実施する、という盛りだくさんの一日。今年度のオープンスクールは 7 月から実施し、広報にも力を入れた結果、たくさんの中학생、保護者に来ていただいている。本日の第 2 回はおかげさまで生徒、保護者を合わせて 160 名の参加となった。
- 9 月 26 日には体育祭を盛大に終えることができた。3 学年を合わせて縦割りの 3 つの団を作った結果、同じ団の生徒を他学年であっても応援する良い雰囲気生まれ、競技でも懸命さ、笑顔、がんばりが随所に見られた。最後に降雨があり、今述べたようなことを講評で大いに褒められなかったのが、校長としてとても残念であった。
- 10 月 21 日には大阪府教育庁からの視察があった。体育の授業を見学された際に、「授業に楽しそうに取り組んでいる。見学者も大変少ない。」との感想をいただき、学校のよい変化が伝わることを私たちもあらためてうれしく思っている。
- 生徒たちは落ち着いて授業に取り組んでおり、今が好機と見て、ICT を活用した授業改善をすすめている。9 月 7 日は全校授業公開日とし、午後にはエンパワメントタイムの研修を実施した。その日の授業を中学校や高等学校の先生方にも公開するとともに、午後は 1 年生だけの授業として、本校の教職員全員が授業を見学し、放課後はタブレット端末を活用した授業の研修を実施した。アクティブラーニングに向けた第一歩を踏み出している。
- ほかに、図書館や教室棟東側トイレを整備するとともに、電子黒板をより効果的に活用するためにホームルーム教室の黒板をホワイトボード化した。こうした取り組みで淀川清流高校、北淀高校それぞれの生徒をいっそう伸ばしていきたいと考えている。本日は忌憚のない意見をお願いします。

II. 報告及び協議

① 平成 30 年度学校経営計画 進捗状況について

指標については、学校教育自己診断、授業アンケートを用いている。

学校教育自己診断については、12 月、授業アンケートは 7 月と 12 月に実施する。現在の進捗状況については、7 月に実施した授業アンケートをもとにお話したい。

(1) 確かな学力向上の取り組み

○第 1 回授業アンケート結果について

- 全般的に、昨年より数値の上昇がみられる。
各項目の平均値合計が 28.00 から 28.74 に上昇した。
- 前年同期の結果と比して、1 年の数値の上昇が目立つ。

1年生の学習に対する意欲の反映と推測している。

- 教科別にみると、特に保健体育、社会の評価が上がっている一方で、理科の評価の低下が目立つ。評価の変動は教員の授業力に左右される部分が多い。教員に対しては、個票をもとに振り返りをし、教員間でのアドバイスをするなどしている。

○学校経営計画について

- 学校経営計画では、授業アンケートの平均値の向上を指標としている。全体は3.19（昨年度第一回アンケートでは3.11）で全体的に上がっている。特に、英語は3.21（昨年度第一回アンケートでは3.16）、数学は3.22（昨年度第一回アンケートでは3.10）であった。
- 進学講習については、学年ごとに進めている。1・2年では夏季講習、3年では5月中旬から毎週決まった曜日に講習を実施している。総じて、1年生が意欲的である。また、3年生が入試に向けて熱心に参加している。

（2）系統的なキャリア教育の展開

○キャリア教育について

- ST・FC（総合的な学習の時間）、「産業社会と人間」「人生設計学」と教養の授業で実践している。1年次は自分を見つめる内容、2年次は多様な背景のある人々との出会いと自分の将来を考える内容、3年次は進路実現に向けての取組みを進めている。9月7日の産業社会と人間では、特別非常勤講師をお招きした授業を実施し、他校からも26名の教員が見学に来た。授業の記録は大阪府教育委員会のウェブページにも公開されている。

○造形コースの工夫改善について

- コース選択生徒の授業アンケートの肯定的回答は3.53（昨年度第一回アンケートでは3.44）であった。学校全体に比べてかなりの高評価を維持しており、3年生のコース授業での企業とのコラボや、美術館等への校外学習の評価が反映したと思われる。実習教員も美術専門の方がついて、より取組みが進んでいる。学外の美術工芸展等には、現時点で92件出展（昨年度は62件）している。

○情報コースの工夫改善

- コース選択生徒の授業アンケートの肯定的回答は3.19（昨年度第一回アンケートでは3.21）で、昨年度より若干だが数値が低下している。各種検定受験者は現時点で51名（昨年度は45名）、合格率は89.5%（昨年80.0%/年）である。一定の評価があるコースの選択授業を、新校のカリキュラムに引き継いでいく。

（3）人権教育・国際理解教育の推進と生徒の居場所・出番作り

○人権教育・国際理解教育の取組み

- 人権教育推進委員長と国際理解教育担当の首席が、学年と連携して取組みを進めている。人権教育としては、いじめやホームレス問題、コミュニケーション力の向上（アサーショントレーニング、アンガーマネジメント）や、就職差別など、広範囲にわたり生徒に考えさせている。

- ・ 国際理解教育は、11月8日に留学生交流会を予定しており、近隣5大学から30人を超える留学生を招き、2年生各クラスでグループに入っただき、交流を進めていく予定である。
- ・ 生徒指導案件における「暴力/ネット/人間関係のトラブルに関する事案」は、本年度8件（昨年度28件）で、件数は減少している。動画を撮って簡単にアップできてしまうなどの環境がある。今後も丁寧な指導を必要とする状況である。

○特別活動、生徒会活動

- ・ 生徒の居場所と出番を用意することで、集団や学校への帰属意識を高めている。部活動加入率は10月18日現在、24.7%（昨年度20.5%）と目標値（18%）を上回ったが、さらに部員数増加に努めたい。新入生歓迎会での部活動紹介は部員たちが頑張ったこともあり、良い出来であった。1年生の入部が多く、全体の増加につながった。部員が少ないクラブにおいては、合同チームで頑張るなど、部員たちは、よくやっていると思う。
- ・ 体育祭においては、一昨年度から「応援団」活動を行っている。今年度は全学年からの希望者を募ったところ、1年生、2年生も参加した。団対抗にし、自主的に活動できるように特別活動部で指導を進め、成果を上げている。団としての意識を持ち、学年を越えて同じ団の生徒の競技を応援するなどの成果が出ている。

（4）規範意識の醸成、家庭・地域と連携した丁寧な生徒指導の推進

○基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成

- ・ 頭髪指導について、再登校指導など教員の話し込みを中心に指導している。現時点では25件（昨年度82件）の再登校指導を実施した。
- ・ 近隣からの指摘については、現時点では19件（昨年度37件/同時点）と昨年より減少させることができた。近隣でたむろして喫煙をすることや、交通マナーが悪いとの指摘があった。
- ・ 校内喫煙については、激減している。
- ・ 遅刻総数は、資料にあるように、昨年度は1年生の遅刻が主な原因で若干増加したが、今年度は1年生の遅刻が少ないことにより、半減した。

○生徒理解と中退防止の取組み

- ・ 本校には、発達上の特性や厳しい生活背景を持つ生徒が多数入学してくるが、入学前に本人・保護者の同意を得て中学校からの聞き取りを行い、校内で共有するとともに、「育ちの継続」の趣旨で、近隣中学校の訪問を行うなど、中高連携をすすめている。
- ・ 入学後は教育相談連絡会、支援委員会を通して、学習や家庭・生活状況に支援の必要な生徒の情報を交換し、必要に応じてSC・SSWにつないだり、校外の機関連携を行うとともに、特に学校全体での理解が必要なケースは、事例検討会（7/3・8/31）を開催して精神科医師の助言を頂くなど、生徒支援の論議ができています。
- ・ また、昨年度より、毎週火曜日に「居場所カフェ」を開設している。生徒支援やカウンセリングなどを学んでいるスタッフが常駐し、クラス等になじみにくくなっている生徒の居場所として機能させている。担任が気になる生徒をそれとなく誘導し、さらにSCにつなぐなど、

次第に支援が充実してきている。

- ただ、こうした取り組みにもかかわらず、9月末で9名（1年2名、2年7名）（昨年度同時期まででは17名）が転退学した。頑張っていて進級したものの、学校に定着しきれない2年生がいたことなどが要因と考えている。今後も中退防止の取り組みを進めていきたい。

○地域連携

- 地域の清掃活動については、春は80名、秋は70名の生徒が参加した（昨年度は合計96名、うち秋は悪天候のため16名）。秋は、地域清掃から戻った後ピオトープを掃除しようという声が生徒からあがり、生徒会、生物部以外の生徒も加わって頑張った。
- 本年度の体育祭は、終了間際に雨が降り出したものの全プログラムを実施でき、多くの保護者の来校があった。
- 本年もフォークソング部、和太鼓部を中心に、保育園の夏祭りへの参加など、地域連携が進められている。
- 広報活動については、パンフレットの改訂や、オープンスクールのチラシを作成する等、淀川清流高校のアピールを積極的に進めている。中学生のニーズを考慮して、昨年より3か月早い7月に第1回のオープンスクールを開催したところ中学生62名の参加があった。本日第2回目のオープンスクールは中学生104名申し込みがある。

（5）教職員の資質向上とOJTの充実

- 本校は、人権、教育相談、部活動指導、授業改善など、多くの研修をおこなっており、定期考査中などに研修や会議があることもある。研修を受けるだけでなく、授業アンケートの振り返りの教科や学年での共有など、さまざまな取り組みを実施している。
- 教員の授業力向上では、初任者については首席が中心となって校内初任者研修を行い、初任者の授業改善をすすめている。10年経験者研修の一環で、先日、公開授業とその振り返りを行った。学習指導要領の改訂を見据え、アクティブラーニングの手法を使った授業を、体育2名、音楽1名の教諭が実践してくれた。自己評価、相互評価等生徒の活動も活発であった。10年目教員の授業を初任者も見学大いに学んでいる。
- 9月7日には淀川清流高校に導入された電子黒板機能付きプロジェクタを用いてのエンパワメントタイム研修を実施。タブレットPCが取り合いになるくらいに、ICT機器を活用して授業を行う教員が増えている。ツールとしてのICT機器の活用を進めたい。
- 初任者等教職経験年数の少ない教員の授業アンケートについては、多くの対象教員が目標の2.8を上回っており、非常に高い評価を得ている教員もいる。目標を下回る教員には授業改善を指導し、今後も授業改善をすすめていく。

〈質問〉

（委員）昨年度は家庭科が下がっていたが今年は上昇しており、今年は理科が下がっているが。

（校長）理科教員については、物理・化学・生物・地学といった専門がそれぞれあるが、担当学年により専門外を担当する、といったことが起こる。

（委員）理科で専門外を持つことは確かにある。

- (校長) しかしながら、授業の評価については、生徒たちとコミュニケーションをとれるかどうか大きい。その違いは他教科の教員間でも見られる。
- (委員) 理科は、物理の教員が物理をするというように、専門の教員が授業をするのでは？
- (校長) 本校は生物が専門の教員が多く、専門外の授業をすることがある。
- (事務局) 学びにはコミュニケーションが大切と考え、本校では学年所属の教員ができるだけその学年の教科を担当するようにしている。
- (委員) 教員が異動するたびに評価が下がるのは大きな課題。一定の質の授業を実施できるようにすべきではないか。評価を右肩上がりにはしていけるように、教員が異動してきた時点で授業の質を上げていけるよう考えていくことはできないか。
- (事務局) 授業アンケートの評価を教科内で共有し、振り返るよう促している。
- (校長) 教材の共有はすすめている。アンケートを分析し、改善を指導しているところ。評価の数値のうえで気になるのは理科。
- (委員) 地域の中学校では、生徒指導上厳しい状況の学校はなくなった。昨年度、勤務校で校内の喫煙がゼロになった。一方で、新たな課題も生起している。淀川清流高校も生徒が落ち着いてきたとのことだが、新たな課題も出てくると思う。このブロックの地域の野球大会を北淀高校でさせていただくなど、さまざまな中高連携を行っており、これからも連携をすすめていきたい。
- (委員) 夏季講習は毎年実施しているのか。
- (事務局) 実施している。
- (委員) 夏季講習の参加と学業成績は比例しているか。
- (事務局) 分析していないので、比例しているかどうかはわからない。学業への意欲喚起の意味合いが大きい。意欲は進学への影響を与えていると考えている。
- (校長) 以前は講習を設定しても参加が得られないことも多かった。昨年度、進学実績を残した生徒は、土曜日にも学校に来て補習を受けていた。今年は、英語検定の補習も実施しており、合格者が出ている。
- (委員) 部活動に参加する生徒が増えたことは喜ばしい。昨年度までもこの場で、ダンス部など今の生徒の関心を惹くクラブの創設が話題になっていたと思うが、現在の状況はどうか。また、部活動加入率の目標値が低いと思うが、その理由は。
- (校長) 部活動加入率は、再編統合した2校の平均値を目標としたため、北淀高校の従来目標値より低くなっている。生徒が入っているクラブを見ると、従来クラブに入る生徒もいるが、筋力トレーニング同好会や卓上文化研究部などの新しくできたクラブに入る生徒も多い。生徒に合ったクラブを作ると生徒も入ってくる。ダンス部の創設も考えたい。学校の変化も踏まえ、部活動のあり方も変えていきたい。

② 学校教育自己診断の改善

- ・ 淀川清流高校がエンパワメントスクールであることから、一部質問の文言を変更した。

Ⅲ. その他

- (事務局) 校訓について。北淀高校、淀川清流高校には校訓がない。西淀川高校は「自主自律」である。

淀川清流高校の開校のこの機会に校訓を制定したいと考えている。これから校内で検討し、関係の方々にも意見を伺ったうえで、第3回の学校運営協議会でお諮りしたい。

次回第3回学校運営協議会は平成31年2月2日（土）午前9時30分～11時00分。